

## FFPE 検体の品質向上を目指して

衝撃の精度管理調査結果を受けた当院の追加調査

©高橋 珠里<sup>1)</sup>、澤田 早織<sup>1)</sup>  
浜松医科大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

### 【背景】

静岡県 の精度管理調査では、2021 年から FFPE 検体の核酸品質調査が導入されている。その初回調査で提出した当院検体の DIN(DNA Integrity Number)値は 1.6 で、再提出した検体でさえも 2.1 という驚きの低値であった。この惨憺たる結果を受け、改善対策に頭を悩ませていた折、婦人科医からも、遺伝子検査を見据えて、検体提出方法を改めたいとの話が持ち込まれた。

### 【経緯】

従来、長時間の婦人科悪性腫瘍の手術では、その終了時まで主病変は冷蔵庫保管となる。さらに、検体搬送時間を過ぎた場合は、翌朝までの冷蔵保存となっていた。この現状を打開するべく、主病変は摘出次第提出、その他大網やリンパ節は、後から別オーダーで提出する運用に変更した。また、主病変の提出がスタッフの勤務時間外になってしまう場合、婦人科医自ら病理部にて検体のホルマリン固定を行えるように、マクロ写真撮影や検体貼り付けのトレーニングを行った。

### 【結果】

検体提出方法変更前の翌朝提出された検体と、変更後の検体の FFPE 検体からそれぞれ DNA を抽出し、DIN 値を測定した。その結果、変更前は平均 2.76 (最大値 3.3)、変更後は平均 3.67 (最大値 5.8) と、明らかな核酸品質の改善を認めた。この結果は婦人科全体に周知され、今後の婦人科新人教育にもこのデータから得られた、検体処理の重要性を引き継ぐ方針となった。

### 【結語】

臨床科と協力することで、FFPE 検体の核酸品質向上を遂げた。検体の提出方法の改善といった、ごく単純な変更ではあるが、目に見える結果が出たことで、臨床医のみならず病理部の意識改善にもつながったと言える。ただし、臨床科によって手術方針は様々で、全ての科で同じ取り組みができるとは言い難い。依然として課題は残るが、引き続き他科とのコミュニケーションを大切に、病院全体の品質向上及び意識改革を進めていきたい。

juri.t@hama-med.ac.jp 053-435-2549